

(様式5)

調査報告書

訪問調査日	平成19年6月22日
調査実施の時間	開始 10時00分 ~ 終了 15時30分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホームここから高宮 (大阪府)
-------------------	------------------------

外部評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

評価調査員の氏名	氏名 日野和臣
	氏名 櫻井良子
事業所側対応者	職名 管理者
	氏名 門田寿子 ヒアリングを行った職員数 (3)人

記入方法

「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に をつけてください。

項目番号について

外部評価項目は30項目です。
「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

【評価実施概要】

事業所番号	2770302038
法人名	株式会社カームネスライフ
事業所名	グループホームここから高宮
所在地	大阪府寝屋川市高宮1丁目15-22 (電話)072-811-3112
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ 大阪支店
所在地	大阪市中央区本町4-4-24 住友生命本町第2ビル3階
訪問調査日	平成19年6月22日

【情報提供票より】(19年6月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年12月1日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	14人 常勤 2人, 非常勤 12人, 常勤換算 12人

(2) 建物概要

建物構造	木造
	1階建ての ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000円	その他の経費(月額)	24,000円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300円	昼食	600円
	夕食	800円	おやつ	100円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(6月10日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	6	要介護2		4	
要介護3	6	要介護4		2	
要介護5	0	要支援2		0	
年齢	平均 78歳	最低	65歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 小松病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは住宅街の一角に位置しているが、周りは畑に囲まれ、のんびりとした雰囲気を感じられる。建物は、1階平屋建ての造りとなっており、庭も広く、季節の花や野菜を育てたりすることもでき、入居者にとっては家庭的で居心地の良い空間であると思われる。法人としては大阪府や奈良県下で複数のグループホームを運営しており、これまでの経験が当ホームの運営に活かされている。法人全体の共通理念に加え、ホームの理念を定め、職員がケアの指針として共有することで、独自性もしっかりと打ち出している。管理者は、地域密着型サービスとしての役割を充分認識しており、地域住民や市町村との関係構築を更に強化したい考えを持っている。今後、この考えを推し進めることで、地域に根ざしたホームになられることを期待したい。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初めての外部評価である。職員は、日常の業務の振り返りや見直しの機会として位置づけている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は管理者が中心となり、他職員と相互に確認しながら、実施している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>自治会長、市職員、入居者及び家族代表等の参加による運営推進会議を2ヶ月ごとに開催している。討議内容としては、入居状況、地域とのかかわり、入居者の健康について、安全対策、行事予定報告等が中心となっている。その場で出た意見に関して、職員会議の議題として取り上げ、検討することでサービスへと反映させるべく取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族会を設けて、過去に2回開催している。開催時においては、ホームの現状報告と家族からの意見収集を中心に行い、そこから得た意見等を職員会議等で検討し、改善に向けて取り組んでいる。また、家族に対して定期的に便りを送り、入居者の状況を伝えることで、安心して頂くよう配慮している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域行事開催に関する自治会長からの案内及び職員の情報収集により盆踊りや秋祭り等の行事に参加し、また、運営推進会議等の機会を通じて、事業所内行事への参加を促すことで交流を持てるように努めている。また、市町村担当窓口にも、ホームの状況を報告することで情報共有できるよう努めている。</p>

2. 調査報告書

主任調査員氏名：日野和臣 / 同行調査員氏名：櫻井良子

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体法人の理念そのままではなく、職員共通の想いとして作りあげた地域密着型サービス事業所独自の理念を掲げている。理念：入居者様中心の生活 地域社会への貢献 研究心と向上心をもつ 和を尊ぶ		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	共有空間に理念を掲示することで、職員・入居者・家族等と共有化を図っている。また、管理者からは理念に基づいたサービスが提供出来る様、ミーティング等の機会を通じた指導がなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、老人会入会への働きかけを行っている。また、盆踊りや秋祭り等の地域行事開催時に連絡を頂き、参加することで地域住民との関わりを積極的にもつように努めている。運営推進会議等の機会を通じて、事業所内行事への参加を促すことで交流を持てるよう働きかけもしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての外部評価であるが、管理者を始めとする職員が自己評価を行うことで、日常の業務の見直しと振り返りの機会として位置づけている。		今回の自己評価及び外部評価を通じて見出された課題について、職員皆で意見を出し合い、改善に向けて取り組まれることを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>自治会長、市高齢介護課職員、入居者家族代表等の参加による運営推進会議を2ヶ月ごとに開催している。その場に出た意見に関して、職員会議の議題として取り上げ、検討することでサービスへと反映させるべく取り組んでいる。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市担当者から介護保険制度に関する情報を聴取し、隣接される地域包括支援センターの担当者との間では、ホーム内の取り組みや様子を伝えることで情報伝達を行い、共有化を図っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>法人及び事業所作成の便りを郵送することで、入居者の暮らしぶりや行事報告がなされている。事業所作成の便りには、個々の様子が書き記されている。時には、写真等を同封することもある。入居者の金銭管理を行うケースは少なく、立替対応時においては、定期的な報告がなされている。</p>		<p>きめ細かな報告が家族等の安心感や満足度を高めることにつながると考える。今後も個別具体的な報告を継続的に行われることを期待したい。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会を設けて、年に1回開催している。開催時においては、ホームの現状報告と家族からの意見収集を中心に行い、そこから得た意見等を職員会議等で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>開設後、1年半以上経過しているが、職員の法人内異動及び離職は他のホームと比較して少なく、定着率も良い。離職時には、入居者及び家族に対して個別に担当職員より説明する等、臨機応変に対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>資格取得や研修受講を法人としても推奨しており、外部研修受講後は、職員会議等の機会において伝達研修を行うことで共有する取り組みもある。</p>		<p>職員の理解や実践の習熟度に応じて、段階的にレベルアップが図れるよう、法人内での連携を強化し、計画的な事業所内研修を実施されることが望まれる。認知症対応に関する専門的な研修を通じて、知識の習得に努められることに期待したい。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同市内事業所勤務のケアマネジャーを中心とした交流を積極的に行い、情報交換や質向上に向けての取り組みが行われている。今後、グループホームと有料老人ホームに勤務するケアマネジャーを中心とした交流を強化し、情報共有を図る予定もある。</p>		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前には、数回の見学や体験入居を行って頂くことで、場の雰囲気をつかんで頂き、相談を重ね、慎重な対応を行うよう心掛けている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日常的な掃除、洗濯、食事準備や片付けを共に行うことを心掛けている。また、会話の中から同地域の慣習や過去の経験や知識等を職員が学ぶ機会もある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居前のアセスメントから過去の経験や現在の様子、暮らし方の意向を確認している。また、日常会話の中から希望の把握に努め、申し送り等により職員間で情報を共有している。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居時におけるアセスメント及び入居者・家族との相談により介護計画を作成し、日常のサービス提供に結びつけている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>担当職員を中心に、介護計画の評価及び見直しを図り、状況に即したサービスが提供できるよう検討している。</p>		<p>各サービス内容に関する目標期間設定を個別に行うことでよりきめ細かなサービスが提供でき、その検証が行いやすくなると思われる。また、サービス担当者会議開催時において、更に家族参加を促すことで、介護計画に関する共通理解が図りやすくなる。介護計画の意識付けを更に強めることで、より良いケアが実践されることを期待したい。</p>
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>提携医療機関との連携により、利用者に定期訪問診療を受診頂くことで、健康管理を行っている。また、重度化した場合や終末期においては、主治医・利用者・家族との相談の上、柔軟に対応する方針を示し、同意を頂いている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>家族付き添いの中で、かかりつけ医での継続した受診を継続されている入居者とホーム提携医療機関の往診を受ける入居者に分かれており、希望を尊重する形での支援体制となっている。内科医は隔週で、歯科医は毎週の往診があり、状態に応じた支援となっている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ホームにおける看取りの方針として、入居者及び家族に対して説明し、理解を得ている。現在までのところ、看取りのケアの対象となる入居者はいない。</p>		<p>ターミナルケアに関する知識を職員が相互に確認し、習得する機会を持ち、今後のために備えられることが望まれる。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>重要な書類は施錠された状態で管理されている。各居室内管理は本人と一緒にしている。職員は介助の声かけのトーンがあらまにならぬよう、配慮している。</p>		<p>対人サービスに携わる者として、プライバシーの保護の徹底と個人情報の漏洩防止は責務である。常に意識できるよう、会議等の場において、定期的に点検されることが望まれる。</p>
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者の生活リズムを考慮しつつ、本人の意向を優先するようにサービスが提供されている。嗜好品に関しても状況に応じた対応がなされている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立づくりや食材の手配は提携の給食会社からの協力を得ているが、調理から片付けの過程の中で、利用者の力を活かしつつ、共に楽しみながら食事を摂れる配慮が見受けられる。給食会社との打合せによりホーム側の意向を伝える取り組みもなされている。また、時には外食して、気分転換を図ることもある。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>週3回の入浴を基本として清潔が保持されている。入浴日以外の日も入居者の希望や状態により支援がなされている。しかし職員の勤務体制上、夜間帯の入浴支援は難しい状況下にある。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>食事準備、掃除、衣類の着脱、買い物等、入居者の身体状況に合わせて行って頂くことで、役割を持ちつつ、自立支援が図られている。また、毎月、外出を含めた企画を用意し、楽しみごとや気晴らしの支援を行っている。</p>		<p>ホーム内でカラオケを行ったり、ハーモニカやマジックの出来る方をボランティアで招いたり、楽しく過ごす支援がなされている。今後も工夫しながら、継続的な取り組みに期待したい。</p>
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>散歩、買い物を始めとして、パーマ屋へ行ったり、図書館に行ったり、また、車を活用した遠出を行ったり、希望や意見を中心に予定を組み立てている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>門扉は施錠された状態にあるが、玄関口は日中、基本的に開錠された状態にある。園庭が広く、菜園があり、草花が植えられ、ベンチも設置されていてゆっくりと過ごすことができ、閉塞感への配慮が見受けられる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>緊急時には警備会社へ連絡を入れることを優先するよう指導がなされ、避難方法に関するマニュアル作成等の準備もされている。市の救急講習も職員が順に受けて、消火器の使い方等を学んでいる。</p>		<p>消防署や地域住民の協力を得て、避難訓練、消火器の使い方などの訓練を定期的に実施されることが望まれる。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>献立は、提携給食先の管理により、栄養バランスに配慮されたものが提供されている。食事及び水分摂取量の確認を毎食後に行われており、体調不良時は、機能レベルにより食事形態を変更する等、状態に応じた支援がなされている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間は居心地よく過ごせるように清潔に保たれている。全体的に明るく、風通しも良い。観葉植物や花、ソファやテーブル、テレビの設置もあり、雑誌等も置かれ、ゆっくり過ごせるよう配慮されている。共用空間から周りにある菜園や畑を見ることが出来る。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は畳敷きとフローリングにタイプに分かれている。居室内に、入居者の使い慣れた家具等が持ち込まれており、生活環境への配慮がなされている。</p>		<p>持ち込み品が少ない、家族の協力を得にくい等の場合においても、一人ひとりについてその人らしい居室内環境作りを職員と入居者とで一緒に考え、継続して行われることが望まれる。</p>

は、重点項目。